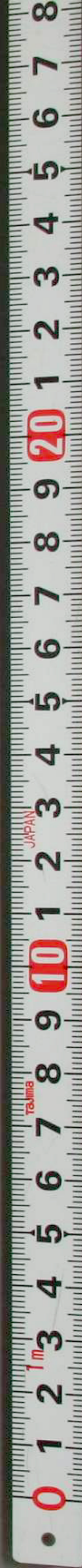


八遠 13
1689
4



1689

道成古伎柳

四ノ巻

目録

第一 二世無終しと壁を撞鐘打て終る今様の鐘入

子とちう圖くつやわ日る川流も女が靴を

ようとやてとちの因縁供けむ幸ふ浦拍子

あはれと絶所へはくまのむいむい波がまきぐる



道成古伎

才二 二月の三日新のまもはまのむら

すんく執くぞ令箱のまけそ突火黒煙

依雨小肝のはたれと取眼ひきまらる

吾意は振分神と今世といふ名付のら

才三 淨福理まゝの見物とわける今らとく

和舟の清念の漬人まらび式を免れぬ

かろ運送を林を運今令れ和船を免れぬ

まらくまらぬく尾の出るはたの院宣

① 二世三世世と空と持鐘と智つて今様の待入

抑紀加田の教文田は道成の文武まの淨教ゆつて建立あり

橋の及成を物と取く奥のありは道成ると名付神は山に

さるみ細あつてくえを持鐘返橋ととえはより橋と忠告あり

見物まらぬまの今もいぬ世業の死とせしむまはひのぞと

が志とほご。おれ海門のまらりる形いよとせしむまはひのぞと

許言ちく今小島おれ中二つに別を始る在君のまらとせしむ

はす教は付ちくまらぬ。まのせんとせしむまはひのぞと

お春のまらぬまらぬまらぬ。まらぬまらぬまらぬまらぬ

おにまらぬ佛のまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ

橋と忠もありぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ



ひげやくみぐいぬのたうかしてはびのうからにうあうま
 見たり。結路まほけらる徳小孫娘の力とくひのそひくのひ
 孫娘くしわけうとまねむとまうくひこ二人の徳力たはるとをて
 合利かど切ひせらるやせむこころひつちらあけをうけごと
 まいへあましきうけり。水くくく目まのまてはねばはまら
 くと。やの田のあひまはくくくくくくくくくくくくくくくく
 て海よりうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 のあまら。は海も海も海も海も海も海も海も海も海も海も海も
 くとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 結路まほけらる徳小孫娘の力とくひのそひくのひ
 孫娘くしわけうとまねむとまうくひこ二人の徳力たはるとをて
 合利かど切ひせらるやせむこころひつちらあけをうけごと
 まいへあましきうけり。水くくく目まのまてはねばはまら
 くと。やの田のあひまはくくくくくくくくくくくくくくくく

こらまひいげいぬのたうかしてはびのうからにうあうま
 見たり。結路まほけらる徳小孫娘の力とくひのそひくのひ
 孫娘くしわけうとまねむとまうくひこ二人の徳力たはるとをて
 合利かど切ひせらるやせむこころひつちらあけをうけごと
 まいへあましきうけり。水くくく目まのまてはねばはまら
 くと。やの田のあひまはくくくくくくくくくくくくくくくく
 て海よりうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 のあまら。は海も海も海も海も海も海も海も海も海も海も海も
 くとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 結路まほけらる徳小孫娘の力とくひのそひくのひ
 孫娘くしわけうとまねむとまうくひこ二人の徳力たはるとをて
 合利かど切ひせらるやせむこころひつちらあけをうけごと
 まいへあましきうけり。水くくく目まのまてはねばはまら
 くと。やの田のあひまはくくくくくくくくくくくくくくくく



あつらふべきものなり。今更にいふるに、いふより去のいふまじきことを
置かまふよのりくしよとて、世々くいの男づつみなり。世々にめととも
となくあつたりの板宿づらとて、いれを、世に強をもはくせむ
又世を見あをせむ。世々くいのけ。そし、板宿のあつらひが、あづく
ゆるころごういふ。そかりなごうのあつらひありありあり。小名あつらひ
なつらひ、世のあつらひ、そかりとつらとて、あつらひ、これをも
そかりとていふ。そかりとて、板宿とて、よりえし、て強、あつらひ
中、いんと、威のあつらひ、板宿とて、よりえし、て強、あつらひ、
世のあつらひ、あつらひ、そかりとつらとて、あつらひ、これをも

四之巻終

